

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 令和2年 12月 31日

事業所名： おーじやん 三木加佐

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	一階、二階が分かれている利点を生かして、各部屋を用途により使い分けている。	はい:12名 どちらともいえない:1名 意見なし いいえ:0名 分からない:0名	今後も、特性やプログラムに応じた配慮を実施しながら、既存の施設の有効な活用を協議していく。
	2 職員の適切な配置	職員は安全を第一に考え、状況に応じて適切な人数で対応している。	はい:11名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 分からない:1名	今後も児童人数や活動の内容に配慮しながら安全確保に努め、職員の適正な配置も行っていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	社会生活から逸脱しない範囲で、視覚支援を取り入れた表示を実施したりしている。階段の手すりの設置など、必要なバリアフリー設備は設置している。	はい:12名 どちらともいえない:1名 意見なし いいえ:0名 分からない:0名	今後も、必要に応じて施設設備の改善を実施していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	清掃は、子供たちにも気持ちよく利用する意識付けの為に毎日のカリキュラムにも取り入れている。それ以外でも職員だけで毎日、清掃をし、週一回は床の消毒、玩具の消毒もその都度、行っている。	はい:13名 どちらともいえない:0名 意見なし いいえ:0名 分からない:0名	今後も清潔で心地よい環境構築を実施していきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	週に1回運営会議を開催し、業務改善に関する検討を行っている。また、週に1回全職員を対象にアセスメント会議を開催し、児童の支援方法等の検討を行っている。		今後も定期的なアセスメント会議を行い、職員全員が足並みを揃えた状態で支援を行う。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	県の実地指導は実施済であるがそれ以外第三者機関での評価実施現在は行っていない。		県以外にも第三者機関を活用しての外部評価の受け入れの検討を行う。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	職員が希望する研修には、人員配置に無理の無い範囲で参加を奨励している。また、必要に応じて職員に対して会社から研修への参加を指示する場合もある。		自立に向けての支援内容を、より向上する為、利用者、一人ひとりにあった研修の機会を設ける。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画に基づき、週一回、職員全体で支援内容が適切に行われているか見直しの場を設けている。	はい:13名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 分からない:0名 意見なし	今後もニーズや課題を客観的に分析し計画の作成に取り組む。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	お子様の障害の特性や状況により、室内、外出先を計画の作成を行っている。 また、集団活動やグループ活動をプログラムに積極的に取り入れることを意識している。	はい:13名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 分からない:3名 意見なし	プログラムの創意工夫を通して、より良い支援に向けて検討を続けていく。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	短期目標と長期目標を設定し、職員全員が支援内容を把握できるよう、施設内にわかりやすく表示をしている。	はい:13名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 分からない:0名 意見なし	今後も、必要に応じて個別支援計画の項目の改善を行っていく。
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	アセスメント会議で個別支援計画に沿った内容で支援が実施出来ているか確認を行い、必要に応じて支援内容を修正している。	はい:13名 どちらともいえない:0名 いいえ:0名 分からない:0名 意見なし	引き続き継続して、個別支援計画に沿った支援内容の共有化を図り、より適切な支援の実施に努める。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	毎日の朝礼、昼礼時に職員とミーティング時間を設け、意見交換を行い、それぞれの得意な事を生かし、活動を行っている。		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	来所される時間に応じて取組を工夫し、児童が退屈しないよう、また負荷が高くないよう取り組みを行っている。	はい:12名 どちらともいえない:1名 いいえ:0名 分からない:0名	アセスメントミーティングや運営会議等で活動プログラムの検討を行っていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節感のある工作や外出プログラム、集団活動の計画を行っている。 また、児童の発達や成長に合わせて難易度を調整するなどしているため、固定化することはない。		
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	朝礼、昼礼時に、その日の役割分担、確認を行っている。		始業前の確認の時間を設けその日の利用児童や注意点等確認を行い役割分担について確認を行う。
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	送迎業務終了後、その日の支援、利用者の様子を話し合う時間を設けている。また、必要に応じて		全職員での共有が必要な場合は週に1回ある会議時に議題として取り上げ共有化を図る。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	連絡帳の記入、本日の支援の振り返り。改善点があれば改善に向けてのミーティングを行い、職員全員で確認し改善に繋げている。		現在の記録用紙に特記事項の記録を継続して行う。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	個別支援計画を半年更新とし更新月の前月にはアセスメントMTで職員間でモニタリングを行っている。モニタリングでは保護者と計画についてのヒヤリングを行い支援計画の作成を行っている。		現在の児童発達支援計画の作成の手順で不都合等見られない為この流れでの児童発達支援計画の作成を継続して行う。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者1名が代表して各会議には参加している。参加できない場合は他の職員が出席している。また必要に応じて2名で参加する場合もある。		継続して左記の内容での実施に努めていく。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療機関との連携は行ってないが、学校と保護者との連携をより密に行いながら情報共有に努めている。		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	かかりつけ医の確認を契約時に行っている。医療行為が必要な児童に関しては受け入れ体制が整っていない為受け入れは行ってない。		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有			各機関との連携(会議)が必要な場合は連絡や相談を行い会議や連携に向けて調整を行うようにする。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	送迎時・学校や親からの情報収集を行い、就労先の福祉サービス事業所へ伺い、就労に向けての自立支援を行っている。		各機関との連携(会議)が必要な場合は連絡や相談を行い会議や連携に向けて調整を行うようにする。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	研修に関しては、社内制度を設け職員が参加しやすい工夫をしている。正職員だけでなく、パートアルバイトについても研修参加を奨励している。		研修の受講機会があれば職員にも参加を勧める。各機関との連携(会議)が必要な場合は連絡や相談を行い会議や連携に向けて調整を行うようにする。
	7 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	外出(公園など)活動の中で他の児童の中に混ざり一緒に遊ぶこともある。	はい:4名 どちらともいえない:2名	いいえ:2名 分からない:5名

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価		保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	長期休暇に活動プログラムを取り入れている。(障害者イベントの参加・消防訓練等)	/		障害者週間への参加は継続して行いながら、地域住民・施設行事を通じての交流についても検討していきたい。
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用者負担や支援内容が不明な点や疑問点がある場合には説明の時間を設け、丁寧な回答を心掛けています。	はい:13名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:0名 分からない:0名	引き続き、問い合わせがあれば不明点の解消に向けての説明を真摯に行います。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	保護者、職員に支援計画書内容を確認し説明を行っている。	はい:13名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:0名 分からない:0名	契約書・重要事項説明書に照らしながら分かりやすい説明を継続して行っています。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	事業所内の実践で効果的な支援方法について申し送り時に保護者に実践方法などの説明を行っている。	はい:7名 どちらともいえない:1名 意見なし	いいえ:1名 分からない:4名	引き続き継続し事業所内で実践で効果的な支援方法については申し送り時に保護者に実践方法の説明を行っていきます。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	自宅送迎時に日頃の様子を保護者に報告するなどし、共通理解の徹底を心がけている。	はい:13名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:0名 分からない:0名	引き続き継続し事業所内で実践で効果的な支援方法については申し送り時に保護者に実践方法の説明を行います。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	送迎時や、電話相談で対応や助言をさせてもらっている。	はい:12名 どちらともいえない:1名 意見なし	いいえ:0名 分からない:0名	今後も引き続き、申し送り時に相談連絡を図りながら児童の支援計画の共通理解に向けて保護者とコミュニケーションを取っていきます。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母会は個別での相談を希望する方が多い為、集団での開催は行っていない。事業所内でイベントを行い、保護者会ではないが参観形式にしている。	はい:5名 どちらともいえない:5名 意見なし	いいえ:2名 分からない:1名	今後も保護者の希望の沿って考えていきたい。市内他事業所と連携して、父母会の実施を検討する。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情や要望の依頼があった場合は、当日中に保護者と連絡をとり苦情・要望への対応を行っている。	はい:10名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:0名 分からない:3名	今後も継続し迅速な保護者対応を心掛け対応を行っていく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	主には、連絡帳を中心とするやり取りであるが、送迎時等にも時間を取ってお話をお伺いすることもある。また、必要に応じて来所頂き、お話をお伺いすることもある。	はい:13名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:0名 分からない:0名	コミュニケーション方法の工夫を行いながら児童・保護者との意思疎通に努める。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	活動の様子はフェイスブックにて報告している。	はい:8名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:1名 分からない:4名	今後は、おたより等での報告も検討している。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	児童の個人情報の取り扱いについて一覧を作成している。個人情報書類は鍵付き書庫に保管している。カメラ撮影時には、名前タグで個人情報の取り扱いに関する注意喚起を実施している。	はい:13名 どちらともいえない:0名 意見なし	いいえ:0名 分からない:0名	一覧表は今後もその内容が変わる都度修正を行い一覧にする。個人情報の取り扱いには細心の注意を払うよう職員間でも周知徹底をおこなう。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを作成している。警報時対応では前日、職員間でミーティングを行い、当日、学校、保護者との連絡を取り合い対応している。	はい:8名 どちらともいえない:0名 いいえ:2名 分からない:0名 意見なし	警報時の対応については今季は台風の影響があり連絡を取り保護者への周知や対応についての理解は保護者にも伝わったように感じる。緊急時の対応等は書面にして配布を行ったり、内容の説明を行う等周知していきたい。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	非常災害発生に備え、月に一回、避難訓練を行っている。また、消防署へ出向き、消火訓練も行っている。 訓練内容(火災・水害・地震・不審者)	はい:9名 どちらともいえない:0名 いいえ:1名 分からない:3名 意見なし	あらゆる非常事態を想定し、今後も訓練後に改善点を話し合いを行っていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待についての職員研修の機会確保はまだないが、職員間で虐待について職員間で議論をおこなう時間を設けている。		必要に応じて研修機会の確保を行い職員の意識を高めるようにしていきたい。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	当施設では身体拘束は行っていない。		該当児童がいる場合には規定に沿った手順の順守や契約時の説明・確認を行っていく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	アレルギーの有無は契約時に確認し、一覧にして掲示することで、職員全員が把握できるようにしている。また、おやつ時は一つ一つに印を付け、一目で判るよう工夫している。		今後も該当児童には保護者から医師の指示の確認や情報共有を行い、児童への食事の誤提供がないよう注意を払う。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットで怪我等があった場合、保護者・市・相談支援事業所へ連絡を入れ、文章作成を行い、市に報告を行っている。		事例があればヒヤリハットの記入を行い、些細なヒヤリから大きな事故の防止に努めるよう全職員へ継続して周知徹底を行っていく。